

江副行昭の世界展

日本ガラス工芸界の第一人者であり、土や灰を高温で溶かして作る「熔壊ガラス」の考案者である伊那谷ゆかりのガラス作家・江副行昭氏。高遠町と長谷で40年にわたり創作を続けた氏の貴重な初期作品も含め約50点を展示します。



《熔壊緑斑玉足 ワイングラス》1997 年



《宙吹ルリ線巻 花入》1958 年



《トレンド A》2000 年



《熔壊斑文渦巻鶴首 花入》2010 年

信州高遠美術館 第2 展示室

2022 6.19—9.18 (日) (日) 9:00~17:00 (最終受付は16:30)

入館料：同時開催の企画展料金に準ずる ※6/19(日)～7/3(日)までは無料入館
高校生以下および18歳未満の方の入館料は無料

※障害者手帳をお持ちの方は受付にてご提示ください。(本人様とお付き添いの方1名様まで入館料全額免除)

信州高遠美術館



えぞえ ゆきあき
江副 行昭
(1932 年 -)

佐賀県小城市生まれ。淡島雅吉氏に師事。
1958 年、「全国ガラスデザインコンクール」金賞・銅
賞受賞。翌年から、全国の百貨店や画廊などで個展・
グループ展を開催。国内外の展覧会に多数出品。
土や灰を高温で溶かして制作する「熔壊ガラス」を
考案する。「日本の青畳に似合うガラス器づくり」実
現を目指す中で高遠の土に出会い、1982 年、高遠町（現
伊那市高遠町）に「高遠スタジオガラスセンター」を
設立。1995 年、長谷村（現伊那市長谷）の「アート
ヴィレッジ信州」内にガラススタジオを設立。1997 年、
世界スピードスケート選手権大会総合優勝副杯を制
作、翌年の長野冬季オリンピック大会スピードスケ
ート・ショートトラックのオープニングドロップ
（スタート順を抽選するための入れ物）を制作。
信州高遠美術館には、1995 年から始まり 53 点の作品
を寄贈された。



同時
開催

信州高遠美術館 第 2 展示室 三二秀作展

出品作家（順不同）：中村不折、江崎孝坪、池上秀敏、細合秀毅
中川紀元、木内克、熊谷守一、福沢一郎

池上 秀敏《決闘》1943 年（部分）▶



市民ギャラリー展開催予定（～9/18）

- 6/19（日）～7/3（日）美術交流展 2022 in 高遠
- 7/9（土）～7/31（日）第 16 回アーツスクール展
- 8/1（月）～9/18（日）収蔵作品展（仮）

休館日（～9/18）

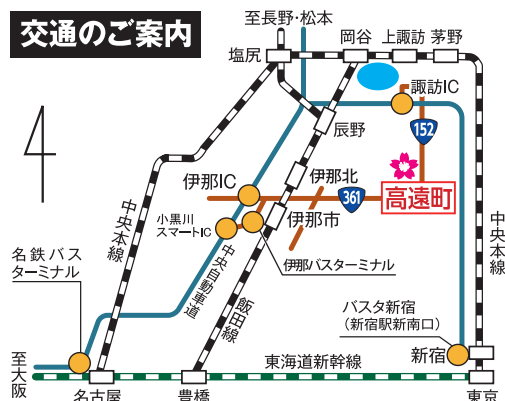
6 月⇒ 7 日（火）、13 日（月）～18 日（土）、21 日（火）、28 日（火）
7 月⇒ 4 日（月）～8 日（金）、12 日（火）、19 日（火）、20 日（水）、26 日（火）
8 月⇒ 2 日（火）、9 日（火）、12 日（金）、16 日（火）、23 日（火）、30 日（火）
9 月⇒ 6 日（火）、13 日（火）、19 日（月）～22 日（木）、26 日（月）、27 日（火）

新型コロナウイルス感染防止対策のため、ご来館の皆様には
以下の点にご協力、ご留意をお願いいたします。

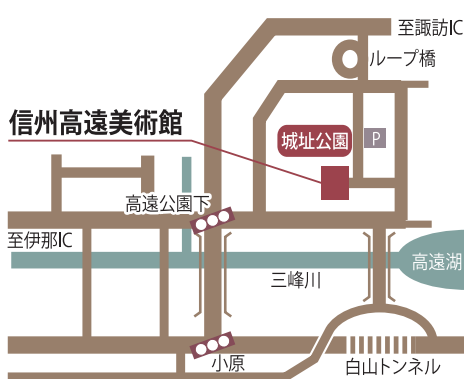


※1 ご記入いただいた情報は新型コロナウイルス感染防止以外の用途には使用しません
必要に応じて保健所等の公的機関へ提供する場合があります
※2 正面玄関からの換気・その他トイレなど共用部での換気を随時おこなっています

交通のご案内



信州高遠美術館



車をご利用の場合

- 伊那 I.C. から国道 361 号を經由 30 分
- 諏訪 I.C. から国道 152 号を經由 50 分
- 小黒川スマート I.C. から 25 分

電車・バスをご利用の場合

- 伊那バスターミナル・伊那北駅から高遠線 JR
バス 25 分で高遠駅。高遠駅から徒歩 25 分

信州高遠美術館

〒396-0213 長野県伊那市高遠町東高遠 400
TEL 0265-94-3666 FAX 0265-94-3936
E-mail: t-bjk@inacity.jp